イブグリース®

第90回日本皮膚科学会東京支部学術大会
イブニングセミナー3

アトピー性皮膚炎治療 Update 2026

日時

2026年11月14日（土）17:40～18:40

会場

第7会場（京王プラザホテル 4F 扇）
〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1

座長

三上 万理子 先生
横浜西口菅原皮膚科 院長

菊池 りか 先生
宮林医院 院長

演者

臨床試験や自験例に学ぶ、
イブグリースを用いたアトピー性皮膚炎の治療戦略
―IGAによる重症度評価―

勝田 倫江 先生
東京慈恵会医科大学 皮膚科学講座 准教授

演者

患者負担軽減を見据えた治療選択：
イブグリースQ4W投与の意義

【レブリキズマブの用法及び用量】
通常、成人及び12歳以上かつ体重40kg以上の小児には、レブリキズマブ（遺伝子組換え）として初回及び2週後に1回500mg、
4週以降、1回250mgを2週間隔で皮下投与する。なお、患者の状態に応じて、4週以降、1回250mgを4週間隔で皮下投与することができる。

鎌田 昌洋 先生
帝京大学医学部 皮膚科学講座 教授

共催：第90回日本皮膚科学会東京支部学術大会
日本イーライリリー株式会社

PP-LK-JP-2027
2026年8月作成